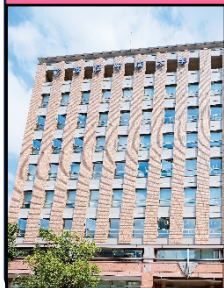


頸部機能に関する研究（頸部回旋可動域測定装置）



【池袋キャンパス】 ヒューマンケア学部 柔道整復学科 助教

佐藤 皓亮 Sato Kosuke

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 頸部・回旋・関節可動域



研究の概要

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

従来頸部回旋の可動域測定には三次元動作解析・分析装置やゴニオメーターを用いた測定が多くみられる。三次元動作解析・分析装置は高価な機器で測定環境に制限があり頻繁に測定をおこなうことは困難であるため、臨床現場においてはゴニオメーターを用いた従来の可動域測定法がおこなわれてきた。しかし頸部回旋の可動域測定にはランドマークの特定が他の関節可動域測定より困難であり、ランドマークを分かりやすく明確にした測定法・測定装置はこれまで見られなかった。本装置はこれらの事実を解決し、装置の製作を簡易で、なおかつ安価とした。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

【課題を解決するための手段】

ゴーグルの前方正中部に支柱を矢状面上になるよう接着剤・ネジで取り付け、ゴーグルゴムバンドの後方正中部にマーカ―を設置する。ゴーグルを緩みのないよう装着する。後頭結節部にマーカ―を設置し、頸部回旋関節可動域を測定する。

【考案の効果】

安価・簡便なおかつランドマークの特定しやすい頸部回旋可動域測定をおこなうことができ、規定に則り測定をおこなえば、経験等に左右されずに再現性の高い計測ができる。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【知的財産】

・実用新案登録第 3243488 号 「頸部回旋可動域測定装置」

【論文】

・「本邦での頸部・頸椎回旋可動域における研究動向・傾向・課題の調査分析-2003～2022 の文献に着目して-」
・「Survey and Analysis of Cervical Rotation Joint Range of Motion Measurement Methods for Patients with Neck Diseases in Japan and Overseas —A Systematic Review —」